

以下に掲載する「富山JC行動指針～2012～」は、2012年に富山JCが策定した行動指針です。そのため、【はじめに】のセンテンスの表現が2012年当時の表現となっておりますので、予めご了承いただけますよう、お願い致します。

富山JC行動指針～2012～

【はじめに】

1952年4月6日、52名の青年により、日本で29番目の青年会議所として、富山青年会議所が設立されました。そして、その志は脈々と受け継がれ、本年で60周年を迎えます。

我々の先達は様々な活動を通してとやまに貢献してきました。この60周年という、ひとつの節目を迎えるにあたり、今一度、富山JCの原点を再確認するとともに、先達の成し遂げてきた功績とその精神を受け継ぎ、とやまの10年先の未来ビジョンに向けて、『行動指針』を策定致します。

まちに良い影響を与えられる、そして、まちから必要とされるために、確かな歩みを一歩ずつ確実に進めて参りたいと思います。

【とやまの10年先未来ビジョン】 選ばれる地域の創造

「10年先の理想の地域」それはどのような地域を想像されるでしょうか。

小さな子供からお年寄りまでもが同じ地域に暮らす一員として、お互いの世代を尊重し、支え合う、調和の取れた社会。そしてまた、学びたいと思えば学べる、地域のために活動したいと思えば活動ができる、自らを成長させたいと思えばその機会が提供されている、そのようなあらゆる機会が提供されている地域をわたしたちは「理想の地域」として想像するのではないのでしょうか。

そのような地域は、次代を担う若者からも暮らしたいと思われる、「選ばれる地域の創造」へと繋がっていきます。

～10年先未来ビジョンに必要な要素～

「個と公」の調和がとれた、明るい豊かな地域すなわち、行政をはじめとする各団体と市民が有機的に連携し、能動的にまちづくりに取り組むことが重要であり、選ばれる地域を創造するためには、個と公、人と組織が有機的に結びつき、とやまへの想いを一つにし、各々の持つ“ちから”を相乗的に発揮することが必要です。

1. 『ひと』のちから

地域を創るのは『ひと』です。そして「まちづくりは、ひとづくりに始まり、ひとづくりに終わる」とも言われます。市民が能動的に、まちづくりに参画することが可能な社会を実現するためには、市民の意識を積極的に変革することが必要であり、自立した心、わがまちを愛する心、利他の心の醸成が重要です。

個々の“ちから”が結集した時、それが更なる“ちから”となり、うねりとなり、ムーブメントとなります。「選ばれる地域」を創造することが全ての市民の希望となり、「選ばれた地域」には更なる希望が限りなく溢れることでしょう。

2. 『組織』のちから

『組織』には様々な団体があります。企業、学校、病院、自治体等があり、それぞれに活動目的は違います。しかし、こ

のまちに籍をおく以上、地域の大切な一員であり、地域からの恩恵を受けることと相対して、地域のために行動を起こす責任も同時に持ち合わせています。それぞれの組織が経済、教育、医療、コミュニティ等の専門的な分野で地域から求められる『組織』として存続し続けることはもちろん、CSRの観点からも地域に対して能動的に社会的責任を果たしていく必要があります。

3. 『まち』のちから

とやまには多くの魅力が存在します。豊かな自然、食文化や芸術・文化、そして、暮らしやすさにおいても全国トップクラスを誇ります。環境未来都市、コンパクトシティの推進も全国的に注目されています。私たちは、まちの持つ魅力をもっと知る必要があり、それらを内外にアピールすると共に、更に魅力あるものにするために行動していくことが重要です。

4. 『JC』のちから

私たちは常に“JC(組織)”の向上と“Jaycee(個人)”としての成長を図りながら、運動を展開する「トップ・グローバル・ネットワーク」を目指します。

※The JCI Vision: To be the leading global network of young active citizens. JCIの理想

:若き能動的市民の世界的なネットワークを率いていくリーダーになること。

富山JCの目指す「トップ・グローバル・ネットワーク」とは

- 若き能動的市民のリーダー的な存在となります。
- 「OMOIYARI」という行動原則で人々を奮起させます。
- まちを発展させ、進歩させるために、行政との垣根を越えてイニシアティブをとります。
- 俯瞰的に物事を捉え、「地域」だけではなく「日本」、「日本」だけではなく「世界」、また「いま」だけではなく「未来」のことを常に考えて運動を展開します。

【富山JC ACTION PLAN 2012】

ACTION PLAN-1 [伝 播]

富山JCは、過去60年にわたり、まちづくりに取り組む先駆的な団体として運動を展開してきました。そして、会員だけでなく、多くの市民の意識に積極的変革をもたらしてきました。60周年を迎える今年、改めて私たちの運動・活動内容とその目的、また存在理由を内外に伝えていく必要があります。

「選ばれるまち」を創造するために、まずは富山JCが「選ばれる組織」となり、まちづくりにおけるリーダーシップを発揮しなければなりません。そのためには、会員個々が青年経済人として常に資質向上に努め、自らの企業を成長・発展させることはもちろんのこと、周囲に良い影響を与えられる存在でなければなりません。富山JCがそのような人材を育成・輩出する組織として市民から認知されることが富山JCブランドの確立に繋がります。

ACTION PLAN-2 [連 携]

富山JC以外にも地域経済を支える団体や組合など多くの組織がまちづくり活動していますが、それらが必ずしも同一歩調が取れているとはいえません。これからのまちづくりはこうした地域内組織間の交流が不可欠となります。組織間に有機的なつながりを持ち、まちづくりに関する様々な情報交換や協力を積極的に行い、事業の共同開催も視野に入れながら、それぞれの得意分野を生かした効率の高い活動を展開していく必要があります。

ACTION PLAN-3 [継 続 と 進 化]

”ローマは1日にして成らず“何かの目標を達成するとき、それに対する「努力を継続させることが重要である」という先人からのメッセージです。JCは単年度制であり組織は毎年変わりますが、「理念」は不変であり「明るい豊かな社会の創造」のために私たちはあきらめることなく運動を展開していかなければなりません。毎年開催している事業が、より高い効

果を生み出すためにも、今後は継続性を持たせて、中長期的なビジョンで事業を構築してまいります。そして、単に継続させるだけでなく、時代の潮流、市民意識、他団体の事業との差別化にも十分配慮し、「Be Better」の観点から、事業を進化・発展させて参ります。

ACTION PLAN-4 [個 と 公 の 調 和]

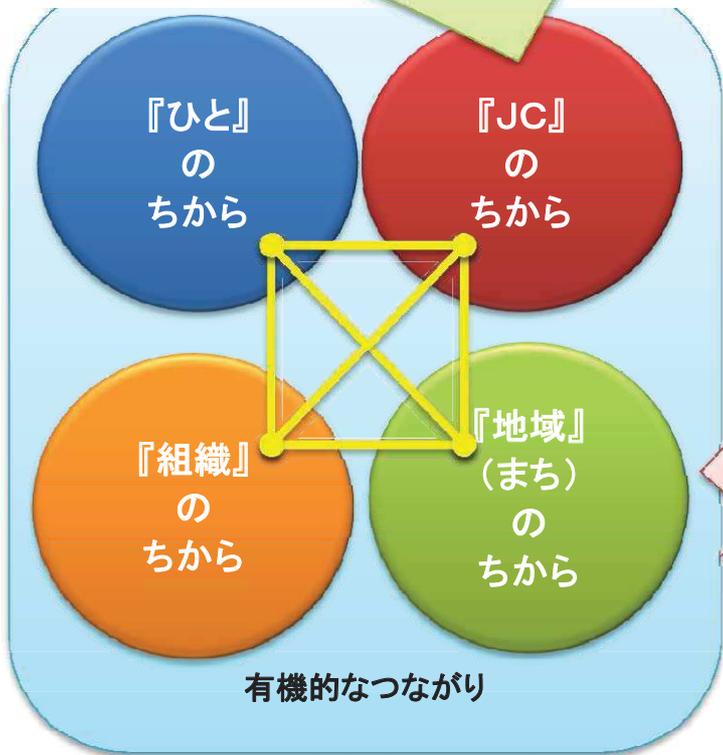
行政が主導している施策に深く積極的に関わり、不偏不党の立場で施策立案にも参画していくことが富山JCの使命のひとつであると考えます。そのために、私たちは自らの考え方を明確に示し、行政が立案し実施する施策の是非を常に判断し、自らの行動を持って示し続けていくアクティブシチズンでなければなりません。そこには批判するだけでなく、行政と市民の信頼関係を基礎として、行政と共にわがまちのために行動し続けることが重要であり、それが「個と公の調和がとれた、明るい豊かな地域」の創造に向けての第一歩になります。

【むすびに】

まちの「10年先未来ビジョン」に向けて、地域の持つ“ちから”を有機的な結びつきで相乗的に発揮することにより、誰もが暮らしたい「選ばれる地域」の創造が現実のものとなります。

わたしたちが“まちに良い影響を与えられる”そして“まちから必要とされる”ために、富山JCが持つ“ちから”の最大限をこの地域に捧げてまいります。

富山青年会議所が
「まちに良い影響を与えられる」
「まちから必要とされる」
そのような「**選ばれる組織**」となるために



『とやまの10年先未来ビジョン』

- 小さな子供からお年寄りまで、お互いの世代を尊重し、支え合う、調和のとれた社会。
- 学びたい、地域(まち)のために活動したい、自らを成長させたい、そのような機会が提供されている地域(まち)